

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194600094		
法人名	社会福祉法人 慧誠会		
事業所名	帯広けいせい苑グループホーム はるか(1階)		
所在地	帯広市西18条南2丁目6-4		
自己評価作成日	平成 29年11月30日	評価結果市町村受理日	平成 30 年 3 月 23 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=0194600094-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号
訪問調査日	平成30年2月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者とのお外出に力を入れて来た。個別の日は数年前から行っているが、それにプラスして日々の会話の中で、どこかに行きたいと言う思いが聞かれた時には、複数での外出なども行ってきた。家族との情報交換も多く行い、利用者がよりよく生活して頂けるために、ご家族と一緒に考えさせていただく事も大切にしています。今後はキーパーソンだけでなく、他のご家族様や今までつながりのあった方とも関わりを持ち、より深く利用者を知ることにつなげて行き、日々のケアに活かしていきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、都心部から少し離れた静かな住宅街に位置し、周辺にはスーパー、商店街、病院などがあり生活の利便性に恵まれている。同法人の小規模多機能ホームと介護支援事業所が併設されていて、行事、災害対策等で連携し、夜間の災害発生にもお互いの人的助け合いを発揮出来るよう取り組んでいる。利用者は、地域サロンや古紙回収などに積極的に参加して地域の一員として交流を深めている。感謝祭等の事業所行事には地域住民が参加して交流している。これらの永年の活動が地域より高く評価されて多くの各種行事等への協力が得られていて、事業所が地域の中心的存在になっている。何といても、地域密着型の基本理念に基づいて日頃から地域との交流が深く、例えば災害時における事業所施設利用の要望があり地域からの信頼度も高い。母体法人のレベルが高いので様々の情報入手が先取り出来る利点を有している。「個別の日」を設けて利用者個々の思いに合わせ、買い物や外食、法人のバスを利用して周辺の催事の見物に行くなど日常生活に潤いと変化を提供するよう工夫している。法人は職員の育成に努め、法人内に育成委員会を設置して、内部研修、外部研修に参加させ質の高いケアに努めている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念・施設理念を踏まえた事業計画を作成し、その意を共有しつつ事業の実践を行っている。また、施設理念をより実際の業務に浸透させていく為、法人施設全体で研修会を行っている。	事業所独自の理念を作成し、会議や各種研修等で話し合って職員で共有し、利用者一人一人の幸せを第一に考え日々実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事に参加している(古紙回収、河川清掃等)はるかで行っている行事、敬老会・感謝祭等では町内会の多数の方に参加して頂き、交流している。また、避難訓練にも参加して頂いている。また、今年は地域の子ども達と職員とで、夏場にかき氷を振る舞ったり、的当てなどのゲームも利用者と一緒に楽しんで頂いた。	町内会に加入し、古紙回収など町内会行事に積極的に参加して地域の一員として交流を深めている。感謝祭等の事業所行事に地域住民が参加して交流している。これらの永年の活動が地域より高く評価されて多くの各種行事等への協力が得られていて、事業所が地域の中心的存在になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議にて地域包括支援センターや老人会、町内会等と情報交換を行いながら、地域の現状や施設が地域に出来る事を共有している。今年度は町内の子ども会と連携し青空サロンと言うお祭りを行った。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域運営推進会議で情報交換を行い、事業計画、防火活動、利用者の生活の様子報告を行っている。生活へのアドバイスや助言を取り入れている。	年6回開催し、地域包括支援センター職員、老人会、知見者、家族等が参加し、事業計画、利用者の生活の様子、「看取り」について等、積極的に提案し、議論を深めて意見や助言を得て、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議委員としてに市地域包括支援センター職員が参加している、また施設広報誌を市介護保険課に送付する、市消防との地域合同防災訓練の実施。	市担当者や地域包括支援センター等と会議や打合せで常に密に連携を図って情報や指導、助言等を得ている。また、事業所からも積極的に出向いて意見交換して協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設でマニュアルを作成し全職員に配布しています。身体拘束に当たらないよう対応を検証し朝のミーティングや各会議等を利用し上司を交え確認を行っている。	拘束となる行為とそれに伴う弊害は、マニュアル、ミーティング、会議等で情報を共有し、身体拘束をしないケアに努めている。夜間は玄関の施錠はしているが、利用者の安全を図る上から、家族の同意を得て一部にはマットセンサー等を活用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員にマニュアルを配布し虐待防止の周知を行っています。日常の介護の中で虐待が無いかわ職員間でのケアの状況の確認や上司への報告、事例検討会を行い全職員での虐待防止の取り組みを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市民後見の実習受け入れを通し制度を学ぶ機会を取り入れている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書、個人情報保護等について、ご本人、御家族に十分な説明を行い、理解同意を頂いてから契約を行っている。定期的に内容の検討を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族代表に参加して頂き各行事に参加頂き意見を頂いている。又運営に関する課題等にも意見を頂き取り入れている。面会時や行事の機会に随時意見、要望を聞かせて頂いています。	日々の会話や動作から利用者の意見や要望の把握に努め、家族等が来訪した時、運営推進会議参加時等に積極的に会話をして意見等を聴取して、これらを会議等で共有して運営に反映させている。入浴時の会話が思いがけない貴重なその人の情報源である。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各事業所ごとの会議や役職会議、統括会議を行いそれぞれ会議で得た情報の伝達、状況把握を行い、運営に関わる提案の機会を持ち検討を行っている。	日常業務、引継ぎ送り、面談などで提案し、会議で検討して運営に反映させている。入院前の重度者に対する最善のケア等の在り方について、常に職員とヒアリングを重ねて対応している事例のように、業務の改善や業務の適格な対応や引継等について工夫された意見が有れば即取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入しスタッフ個々の目標達成の支援のために面接を行い日常的なサポートを行っている。研修やOJTを活かし事業所全体で取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課制度を導入し、日常業務を通じスタッフ個々に合った育成を行っています。又、年間事業計画に施設内研修や施設外研修を計画しており順次職員が研修を受けている。OJT取り組み個々のレベルアップを目指している。又、育成委員会を法人内に作り法人全体で育成に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム研修、小規模多機能研修、ケアマネ研修に参加し、ネットワーク作りや知識向上の機会を持っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に面接し、本人、ご家族、他関係機関から生活歴などの情報を頂き、関係づくりに活かしている。又、本人にとって不安な事や要望を聞いて、総合的なアセスメントをしながら、必要なケアを実施し、関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に施設内をみて頂きその際、家族と話をする場を設け不安なことや要望を聞いている。コミュニケーションを図り安心してサービスを受けられるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が大切にしている事を考慮しながら今、何が必要かを考えその方に合ったサービスを選択し、迅速に対応するよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事やおやつのメニュー、レク等可能な限り利用者自身に選択をして頂くように促し、それぞれが生活の場において活躍する機会を設けられるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活状況や体調変化を随時お知らせし、生活に対する意向を確認し、ケアに反映させている。行事等一緒に楽しむ機会を作り、通院にもご協力頂いています。また、本人の誕生日会などにも足を運んで頂き、ご家族を交えてお祝いしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みのお店など、社会資源に関しても、継続的に利用できるよう支援に努めている。地域サロンに継続的に通っている事で、顔馴染みの方が増え、毎週通う事で、社会との繋がりも大切にしている。また、昔住んでいた自分町や家を見に行ったり、ご家族の家を訪ねる等本人に喜んで頂ける様な支援に努めた。	利用者の生活歴を把握し、普段の何気ない会話から思い出の人や馴染みの場所等を把握して、出張理容を利用したり、長年通っている美容室へ行っている。また、昔住んでいた家を見に行ったり、地域サロンに参加するなどして馴染みの人や場所との関係が途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団や少人数での外出や、楽しみを通じて関係調整に努めている。また、同一ホールに留まらず、併施設設等を利用している方との交流も盛んに行なわれている。今年度は同じ法人内の別のグループホームとの関わりも大切に行なった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを継続出来なくなった場合にも要望に応じて次のサービスへの相談、申請支援をしている。契約終了後も、相談等の対応をさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各担当が中心となり、日々の記録、アセスメントやモニタリングを実施している。日々の生活の中で関わりを持ち、その方の意向の把握に努めている。把握が困難な場合や課題が生じた場合にはケース会議・職員会議にて検討、関わりについての確認をおこなっている。	日常の会話や表情、家族等との面談時の情報などから思いや意向の把握に努め、これらを記録等にして、職員で共有し希望や意向に添うよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面接時や、入所時にこれまでの生活の様子をお話して頂ける範囲でお聞きし、入所後も随時情報収集に努めている。また、連絡の取れるご家族からも随時情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状況に関しては、個別の様子を記録に残し、チームノートで情報を共有したり、定期的なモニタリングで振り返り、それをチーム会議で共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人一人に担当を決め、月1回のチーム会議で職員間の意見交換を行い、計画の見直しや検討を行っている。本人、家族、職員全体との意見交換を経て作成している。又、必要に応じて随時モニタリング、ケース検討を実施している。	家族や利用者の意向を反映させ、毎月チーム会議で意見交換して、担当者の意見、モニタリングや会議で出た意見を基に、6ヶ月毎に介護計画を作成し家族の承認を得ている。また、状況に変化があればその都度現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケアプランに沿っての介護記録や申し送りノート等を活用して職員間情報共有をしケアを実践している。見直しや実践の振り返りに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じ法人内の栄養士や作業療法士に助言を頂いたり、歯科の訪問を取り入れ利用者の健康維持に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所内での出来事、行事、今後の方向性等については地域運営推進会議や町内の回覧板等で情報発信している。また、町内会の行事のお誘いを受けて参加させて頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	顔馴染みの医療機関との関係も考慮しつつ、本人と家族が納得できる適切な医療を受けられるよう、医療機関の移行の提案など、支援している。	利用者や家族が納得できるかかりつけ医の受診を支援している。通院は家族同行が原則だが、事業所がサービス同行のケースが多い。医師からの要点をその都度家族へ報告している。また、法人は病院を運営し適切な医療支援を受けられるようになっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の体調変化の報告。通院後の受診記録、薬の情報を報告している。状態変化があった時には、すぐに看護職員に相談できる体制を整えている。(休日であっても電話にて指示を受ける)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、施設での状況を伝え、入院後も定期的な面会やご家族との電話で状況把握に努めている。また、ムンテラにも必ず参加し、退院後も緊急時に備えた関係作りを心掛けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化し、医行為が増えてきた場合、対応が難しい事を説明させて頂いているが、出来る限り今ある馴染みの環境で暮らし続けられる様、家族、医療機関と連携し、支援している。	入所時、利用者と家族に「重度化した場合における対応指針」に基づき説明理解を得ている。また、来所面接時等にその都度体調変化の状況を話し取り組み方を詳しく説明している。昨年1件(女)の看取り支援を行っている。今後、重度化し、医療行為が増えた場合対応が難しくなることも考えられるが、家族、医療機関、事業所と連携を密にして出来る限り支援に努める。	日々の体調変化が予測される中で事業所として大きな課題であることから、常に関係者等との情報の共有と連携を密にして、更には職員間の高度な共通認識の中で他事業所の事例等を見聞する等し、なお一層の遺漏のない支援と取組に期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを元に事故発生時にもあわせて対応出来るように備えているが、職員が全員同じような対応ができるかは課題ではあるが、看護師などと連携を行いながら行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中想定・夜間想定とし年2回の避難訓練を実施している。また、避難訓練時には地域の方々にもお声掛けしご参加頂き、日頃から関わりを持ち関係を深めながら災害時のご協力とご理解を頂いている。運営推進会議でも議題に上げ地域に状況確認も行っている。	年2回の避難訓練を日中及び夜間想定で実施している。災害計画策定、避難訓練、地域対応と関係機関の指導等を得ながら非常に良く整備されている。近頃の川による水害時想定にも法人全事業所間の協力体制が確立されている。職員の災害対応に対する認識は基本的な人命尊重に立脚し非常に高く、日々の支援に取り組んでいる。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、プライバシーを大切にしていこうという意識を持って接している。常に言葉づかいを職員間でも注意し合いながら接するように心がけている。又、認知症の理解も行い、利用者の言動や行動も理解していけるようにしている。	常に自然体の目線で声掛けや対話をするように心掛けて、利用者の性格や社会的経験等を考慮して接している。また、会議や研修会等で一人一人の誇りやプライバシーを損ねない様に確認し合い職員で共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、本人の思いを言葉や嗜好・行動・表情から感じ、やりたいことができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりの日課はあるが、その時々思い等を優先し、その時に対応出来るよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張理容を利用したり、長年通っている馴染みの美容室への外出を行っている。また、ご近所の理容室等気分転換を兼ねての外出も行っている。外出時には、お化粧をしたり、定期的な顔そり・爪切りの支援をさせて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前のテーブル拭きや、食事の盛り付け、おやつ作り、米とぎ等それぞれの利用者が役割を持って行っている。食後は、職員と一緒に下膳、食器洗い、食器拭きにも取り組んでいる。	献立は常に季節感を多く取り入れる様に配慮しており、他事業所の菜園の物も一部利用している。また、食事の準備等にも利用者は能力に応じ積極的に参加しており非常に和やかである。職員と会話をしながら食事を楽しく取っていて家庭的雰囲気は十分に感じられる。外食も希望を聞いて取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は一日1500mlの摂取を目標とし、記録に残しながら職員同士声を掛けあい、その方に応じた水分形態で提供している。また、皆さんと同じ食事が進まない方に対しては、ご家族とも相談し、その方の好きな物や口にしやすい物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けを行い、歯磨き、義歯洗浄を実施し、清潔を保持している。身体状況に合わせて職員が介助して一緒に行っている。又、家族の意向や必要に応じて歯科衛生士のケアを取り入れ口腔内の健康を保っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄リズムを把握しながら、その方に合わせて随時声かけやトイレ誘導・パットの検討を行っている。又、排泄の記録から水分や食事、下剤の調整を随時行っている。	チェック表で利用者それぞれの排泄パターンを把握し、時間毎に、あるいは表情、態度などから把握して、適時にさりげなく声をかけ、トイレに誘導している。この事がトイレに行く事の認識と習慣化になる様に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	本人の嗜好や家族からの要望を取り入れながら、プルーンやヨーグルト・ファイバーや麦なども取り入れて便秘の解消に対応している。又、水分量なども日々気に掛けながら対応させて頂いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、必要に応じて車椅子浴も行っている	可能な限り本人の希望に沿った入浴を行っている。週2～3回は入浴し、個々の身体状況に合わせて、必要に応じて車椅子浴も行っている。	週2～3回は入浴でき、入浴拒否は一人もなく、全員が楽しく入浴している。また、入浴日以外の入浴にも希望に沿う様に支援している。車椅子利用者には機械浴により安全な入浴を楽しめる様支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々の体調や昨日の様子などを考慮しながら、日中休息の時間を設けその日一日を元気に過ごせるように対応させて頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬の効用や副作用を十分理解して症状の変化などにも気を付けている。処方された薬でも利用者に合っているかNSや薬剤師の方と相談することもある。服薬の際は、氏名、日付、時間などを確認し誤薬の無いように注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事やレク等、施設内に留まらず、楽しみを求め、外出の機会を作っている。一人一人に個別の日を設け、その方に合った楽しみを提供出来るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別に楽しみを持てるよう、一人一人に個別の日という機会を用意し、個別での活動を実施している。また、日常的に何か食べたい物や行きたい場所への希望を聞き、外出を行っている。地域サロンへの参加も週1回希望者を募り、参加している。	日頃から事業所周辺の散歩で体力向上や、気分転換に心掛けている。また、「個別の日」を設けて利用者個々の思いに合わせ、買い物や外食、法人のバスを利用して周辺の催事の見物に行っている。町内会行事へ参加する等日常生活に潤いと変化を提供するよう工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金をさせて頂いていない方は、買い物等の時はGH立て替えしお払いさせて頂いている。支払いを心配されている方でも実際に払っている事を説明する事で納得され、安心されている状況にある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や顔馴染みの人との関係を生活の中で感じられるよう、面会や来所が長い時には、電話や手紙等を用いて関係継続に努めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は整理整頓や清潔を保つ様に心がけ季節ごとの温度や湿度の調整に心掛けている。又、四季の変化を感じて頂ける様に装飾を考えたりしている。又、利用者の方と一緒に作ったりもしている。	事業所の中心には広い共有スペースがあり、明るくて清潔で整理整頓され、温・湿度も適正に調整され、椅子や調度品が使いやすい配置されている。季節感ある飾りつけや大相撲の番付表、利用者の作品などを飾り居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者本人の意向を取り入れながら座る場所や配置を考えている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の安心を考え、お家で以前から使っている物を持参して頂いたり、必要に応じて冷蔵庫やテレビなど居心地良く過ごせる様に工夫している	ベットが備え付けられ、非常に清潔で、整理整頓がされている。使い慣れた調度品は利用者と家族等との話し合いで持ち込んでいる。遺影や仏壇、利用者の思い出の品等を飾って、個々の意に沿った居心地の良い居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の身体状況を考えながら、その人に合った介助用品の検討などを行う。又ご自宅からの入所の方はご自宅で使っていたものや家のレイアウトに合うように変化させるなど、ご自身で出来ること、やりたいことを安全かつ、自信を持って行える様工夫しながら支援している。		